

新興国レポート

インド経済 回復期待高まる

堅調な経済を背景に企業業績の改善が期待される

- ▶ インド中央統計局が3月12日に発表した2018年2月のC P Iは、前年同月比4.4%上昇となった。
- ▶ 同日発表の1月の鉱工業生産指数は前年同月比で7.5%上昇となり、2017年11月に続き高い伸びとなる。
- ▶ 堅調な経済を背景とした企業業績の改善期待が、インドの株式相場を下支えすることが期待される。

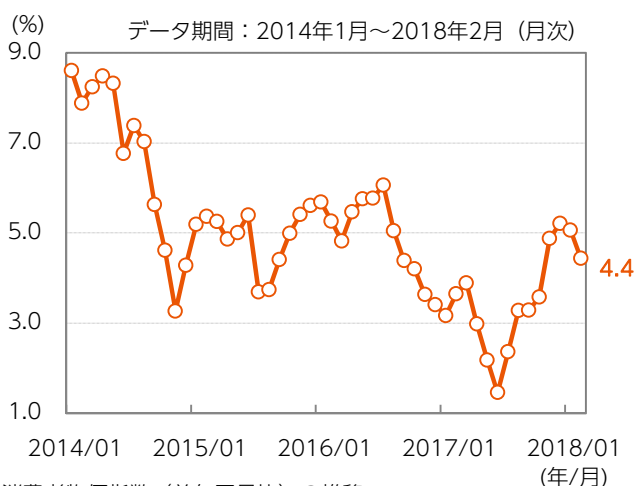
インド中央統計局が3月12日に発表した2018年2月の消費者物価指数（C P I）は、前年同月比4.4%上昇となり、市場予想の4.7%を下回りました。昨年12月に同5.2%まで上昇していたC P Iは2ヵ月連続で低下しています。インド準備銀行（R B I、中央銀行）が政策目標とする2.0~6.0%の中央値4.0%をやや上回ってはいるものの、次回4月の金融政策決定会合において利上げが見送られるとの見通しが増える可能性があります。

インフレ減速の背景には、C P Iのおよそ46%を占めている食料品・飲料の上昇率が、1月の4.6%から3.4%に低下したことが要因とみられています。なかでも、1月に上昇率が27.0%であった野菜が17.6%となり、食料品・飲料全体の上昇率を押し下げました。また燃料等も6.8%となり、1月の7.7%からやや落ち着きました。

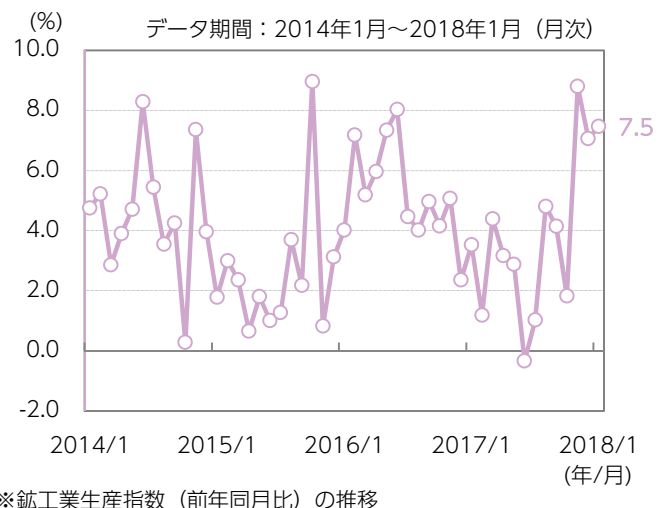
また、同日に発表された1月の鉱工業生産指数は前年同月比で7.5%上昇となり、2017年12月の同7.1%から上昇し、約2年ぶりに高い伸びとなった昨年11月の8.8%以来の高い伸びとなりました。産業別では製造業の伸び率が8.7%と最も高く、23業種のうち16業種が前年同月から上昇となりました。今回伸び率が最も高かった製造業は、2017年7月1日に導入された全国共通の新たな間接税『財・サービス税（G S T）』により、一時的に混乱がみられたものの、直近の堅調な統計結果から判断するとその影響は後退しつつあるものと思われる。

今回発表された両指数は、インドの良好な経済状況を示すものとなりました。堅調な成長が継続するとの期待から、引き続き今後も消費や企業の設備投資が活発化することが見込まれます。堅調な経済を背景とした企業業績の改善期待が、インドの株式相場を下支えすることも期待できそうです。

図表1：消費者物価指数は低下傾向へ



図表2：鉱工業生産指数は上昇へ



出所) 図表1~2はC E I Cデータをもとにニッセイアセットマネジメントが作成

【当資料に関する留意点】

- 当資料は、市場環境に関する情報の提供を目的として、ニッセイアセットマネジメントが作成したものであり、特定の有価証券等の勧誘を目的とするものではありません。また、金融商品取引法に基づく開示資料ではありません。実際の投資等に係る最終的な決定はご自身で判断してください。
- 当資料は、信頼できると考えられる情報に基づいて作成しておりますが、情報の正確性、完全性を保証するものではありません。
- 当資料の内容は作成時点のものであり、将来予告なく変更されることがあります。
- 当資料のいかなる内容も将来の市場環境等を保証するものではありません。
- 当資料にインデックス・統計資料等が記載される場合、それらの知的所有権その他の一切の権利は、その発行者および許諾者に帰属します。
- 当資料に投資信託のグラフ・数値等が記載される場合、それらはあくまでも過去の実績またはシミュレーションであり、将来の投資収益を示唆あるいは保証するものではありません。また税金・手数料等を考慮しておりませんので、実質的な投資成果を示すものではありません。
- 投資信託は投資する有価証券の価格の変動等により損失を生じるおそれがあります。
- 投資信託の手数料や報酬等の種類ごとの金額及びその合計額については、具体的な商品を勧誘するものではないので、表示することができません。

<設定・運用>



ニッセイアセットマネジメント株式会社

商号等：ニッセイアセットマネジメント株式会社

金融商品取引業者

関東財務局長（金商）第369号

加入協会：一般社団法人投資信託協会

一般社団法人日本投資顧問業協会

ニッセイアセットマネジメント株式会社

コールセンター 0120-762-506（受付時間：営業日の午前9時～午後5時）

ホームページ <https://www.nam.co.jp/>